

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 新潟大学教育学部附属長岡小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒940-8530
新潟県長岡市学校町 1-1-1

E-mail fusyo@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp

Website _____

児童生徒数 男子 178名 女子 190名 合計 368名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

活動内容

- (1) 新教科「社会創造科」を設置した。各学年の年間計画は以下の通りである。
また、各学年の活動において、該当するものについて記述する。

第 2 ステージ 年間単元配列表(ステージごと)

学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小2	題材	学校探検をしよう		大きくなあれやさいさん				手作りおもちゃの遊園地を作ろう		冬のくらしを楽しもう		お店屋さんごっこをしよう	
		遊び発見大好き栢吉川		いっしょにあそんでひろがるなかま		まちたんけんに行こうパート2							
				まちたんけんに行こうパート									
	配当時間	8	16	18	22		15	18		6	16	16	
	学習内容Ⅰ	A相互性 B責任性	A多様性 B連携性	A相互性・多様性 B責任性	A相互性 B責任性		B連携性・責任性	A相互性・多様性 B責任性		A多様性 B責任性	A相互性 B責任性	A多様性 B連携性	
小1	学習内容Ⅱ	A計画立案の仕方	B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方	A目標設定の仕方		B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方		B話し合いの仕方	C試行修正の仕方	B話し合いの仕方	
	重点を置く 資質・能力	立志・計画 他者との協力	価値の認識・ 他者との協力	自己の認識・ 価値の認識・発信	立志・計画・他 者との協力・価値 の認識		価値の認識・発信	自己の認識・ 価値の認識・発信		他者との協力・ 創造	他者との協力・ 創造	価値の認識・ 他者との協力	
	題材	大好き附属小学校		いっしょにあそんでひろがるなかま		つくってあそぼ		ぼくわたしにできる家のこと		雪で作って一緒に楽しもう			
		大きくなってねお花さん						つくってあそんでなかよし					
				遊び発見大好き栢吉川		秋のしげんでつくってあそぼ				栢吉川と仲良し(鮭について)			
	配当時間	10	19	20	10		12	12	10	10	20	12	
	学習内容Ⅰ	A多様性 B連携性	A多様性 B責任性	A多様性 B連携性	B連携性・ 責任性		B連携性・ 責任性	A多様性 B連携性	B連携性・ 責任性	B連携性・ 責任性	B連携性・ 責任性	A多様性 B連携性	
	学習内容Ⅱ	A自己評価の仕方	A計画立案の仕方	B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方		A計画立案の仕方	Bビジョン共有の仕方	A目標設定の仕方	Bインタビューの仕方	B話し合いの仕方	Cプレゼンの仕方	
	重点を置く 資質・能力	価値の認識・ 他者の認識	現状の把握 価値の認識	熟考・対話や 議論への参加	立志・計画 他者との協力		立志・計画 創造	他者との協力 創造	立志・計画	立志・計画 価値の認識	他者の認識 創造	他者の認識 発信	

<実践の概要>

夏に学校の近くを流れる栖吉川で遊んだ子供たちは、川の中や土手のゴミの多さに気付き、きれいにしたいという思いをもった。そこで、12月に地元の寺泊漁業組合の方から鮭の発眼卵を譲り受け、飼育・観察を行った。

漁業組合の方の鮭に対する思いを聞いた子供たちは、「鮭の戻れるきれいな栖吉川にしたい」という思いを強めた。そこで、「栖吉川は信濃川から海までつながっているのか」「栖吉川の水で鮭は生きていけるのか」などを調べ、3月に栖吉川に鮭の稚魚を放流した。放流を終え、「ゴミが増えないように看板やチラシを造って呼びかけたい」「毎月ゴミ拾いをしたい」など、これからの自分たちにできることを考え、実践していこうとする意欲を高めた子供たちである。



寺泊漁業協同組合から、約300個の鮭の発眼卵を譲り受け、発眼卵や孵化後の稚魚の様子を観察した。観察日記に表し、家の人に定期的に伝える活動を行った。



鮭の孵化場や鮭が遡上する川の見学を行った。実際にそこで働く方々の思いに触れることで、「鮭は自然の中ではなくて、人が守っていくことも重要である」ということをとらえ、「自分たちの身近な栖吉川も鮭が遡上できるような綺麗な川にしていきたい」という思いをもったり、「現在の栖吉川で鮭がすめるか」・「栖吉川は海までつながっているのか」ということをはっきりさせたりしたいと考えた子供たちである。



「現在の栖吉川の水でも鮭はすめるのか」について明らかにするために、実際に栖吉川の水をくみ、そのにおいや見た目を観察した。また、それだけでは判断できなかったため、鮭の稚魚を一匹栖吉川の水に入れ、その様子を観察した。鮭の稚魚が元気に生きていることから、栖吉川の水自体には問題がないことが明らかになった。



「栖吉川は海までつながっているか」について明らかにするために、保護者と共に地図をつないでいった。栖吉川が信濃川へとつながり、そして海につながっていることが明らかになると共に、実際の海までの距離を計算し、鮭の稚魚は長い道のりを泳いで海まで行き必要があることが分かった。二つの問題が解決されたため、鮭の稚魚を栖吉川へ放流することとした。



三月に希望の保護者と共に、栖吉川に鮭の稚魚を放流した。子供たちは、「四年後に帰ってきて欲しい」「ゴミ拾いなどをして、綺麗な栖吉川を守っていきたい」という思いをもって、稚魚を放流した。来年度以降は、綺麗な栖吉川を守っていくための活動を行っていく予定である。

第 3 ステージ 年間単元配列表

学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小4	題材	栖吉川の今と昔 長岡野菜を作ろう		おじいちゃん おばあちゃんに 会いに行こう			栖吉川の今と未来		みんなでつ くろうなかよ しフェスティ バル	長岡の先人 に学ぼう	2分の1成人式を成功させよう			
	配当時間	19		5		10		26		10	10	15		
	学習内容Ⅰ	A多様性,相互性,有限性 B連携性		A有限性, 相互性		A多様性,相互性 B連携性		A有限性,多様性,相互性		A相互性 B連携性,責任性	A多様性 B連携性		A相互性 B連携性,責任性	
	学習内容Ⅱ	C情報収集の仕方 まとめ方等		C情報収集の 仕方		Bインタビューの仕方, 交流の仕方等		A目標設定の仕方 C現状の分析方法,プレゼンの仕方		A計画の立案 B話し合いの仕方	A計画立案の仕方 Bインタビューの仕方 Cプレゼンの仕方		A自己評価・振り返りの仕方 B願いの共有 C思いの伝え方	
	重点を置く 資質・能力	立志・計画, 価値の認 識, 他者との協力, 現 状の把握・分析		価値の認識, 他者との協力		価値の認識, 志の共 有, 発信		立志・計画, 対話や議論への 参加, 発信		自己の認識, 責任 の遂行・粘り強い取 組, 他者との協力	価値の認識, 立志・計画, 発 信		自己の認識, 責任の遂行・粘り強い取組, 他者との協力, 発信	
小3	題材	楽しもう百年の森		長岡野菜を 作ろう			もっと楽しもう 百年の森		みんなでつ くろうなかよ しフェスティ バル	錦鯉と なかよし	錦鯉となかよし 伝えよう長岡の民話			
	配当時間	30		11			15		14	10	15			
	学習内容Ⅰ	A多様性,相互性,連携性 B責任性		A有限性,相互性			A有限性,多様性,相互 性 B連携性,責任性		A多様性,相互性 B連携性,責任性	A相互性 B連携性,責任性	A多様性 B責任性			
	学習内容Ⅱ	B他者理解の仕方 Cまとめ方		C情報収集の仕方			A計画の立案 B話し合いの仕方 C現状の分析		Bインタビューの仕方 Cまとめ方	A計画の立案, B話し合いの仕方	A計画の立案 Cプレゼンの仕方			
	重点を置く 資質・能力	自己の認識, 現状の把握・分析, 志の共有, 責任の遂行・粘り強い取組		価値の認識, 他者との協力			価値の認識, 現状の把握・分 析, 対話や議論への参加		価値の認識, 他者 の認識, 発信	自己の認識, 責任 の遂行・粘り強い取 組, 他者との協力	志の共有, 他者との協力, 発信			

小学4年 単元名「栖吉川の今と昔、今と未来（栖吉川の生き物について）」

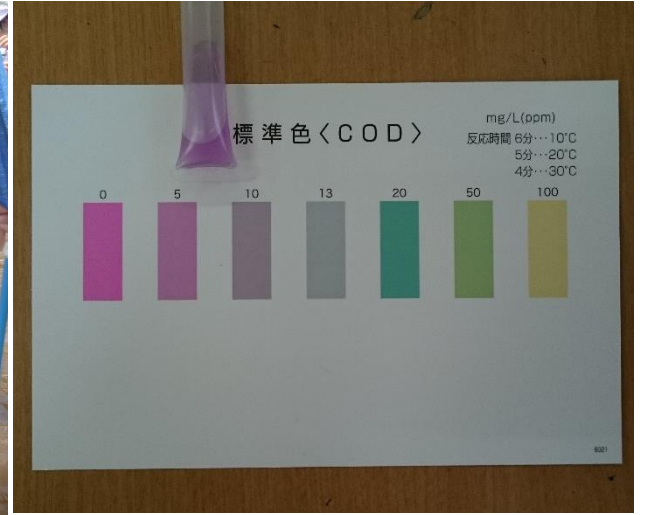
<実践の概要>

毎年児童会行事「栖吉川フェスティバル」で、生き物を捕まえて親しむ活動を経験している子供たちは、栖吉川に棲息する生き物の生態を調べていきたいという思いをもった。そこで、栖吉川の生き物を捕まえ、観察したり図鑑で調べたりした。栖吉川にはアカザやホトケドジョウといった絶滅危惧種が棲息していることを知った子供たちは、それらのすみかを守っていききたいという願いをもった。そこで、栖吉川の環境が現在どのような状況であるのか、水質調査や捨てられているゴミの量を調査して明らかにすることとした。生き物の数の経年比較や水質調査、ゴミ調査から栖吉川の環境は生き物にとって棲みやすい環境を保つことができていると結論付けた子供たちは、調査したことをまとめ、川を管理している方に報告したいという思いをもった。そこで、長岡地域振興局の方に調査結果を報告する「栖吉川調査報告会」を実施することにした。

調査結果を報告し、長岡地域振興局の方からの「とても重要な調査をしてくれた。これからも調査を継続し、川の環境を大切にしたい。」という話を受け、「調査の仕方を下学年に引き継ぎたい」「ゴミ拾いなど自分ができることをしていきたい」など、川的环境を守るために自分たちができることを考え、実践していこうとする意欲を高めた子供たちである。



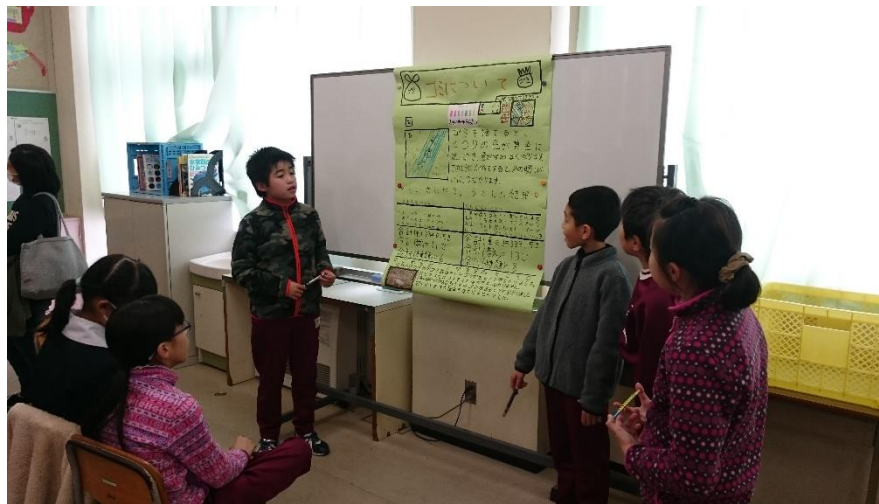
ゴミの調査や生き物調査、水質調査など、栖吉川に関して様々な調査活動を行った。その結果、生き物にとって棲みやすい環境であることや絶滅危惧種を含む多様な生き物が棲息していることを見いだした。





保護者や長岡地域振興局の方に調査結果を報告する「栖吉川調査報告会」を実施した。

調査結果を報告し、長岡地域振興局の方からの「とても重要な調査をしてくれた。これからも調査を継続し、川的环境を大切にしたい。」という話を受け、「調査の仕方を下学年に引き継ぎたい」「ゴミ拾いなど自分ができることをしていきたい」など、川的环境を守るために自分たちができようことを考え、実践していこうとする意欲を高めた。





第 4 ステージ 年間単元配列表

授業形態		小中合同授業(中1・小6)			小中交流授業(計画時・中間発表時・単元末時の3回)					小中別授業			
学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中 1	題材	前期単元 (自然環境・コミュニティ)			中期単元 (ブランド・まちづくり)					後期単元 (東京でのキャリア教育)			
	配当時間	18			27					20			
	学習内容 Ⅰ	A有限性・多様性 B責任性			題材により、いくつかを設定					A相互性 B連携性・責任性			
	学習内容 Ⅱ	B目標やビジョンの共有方法 C問題の把握や分析の方法			A目標設定の仕方 Bメモの取り方 C現状の分析方法、論理的な思考法 等					Bプレゼンテーションの仕方			
	重点を置く 資質・能力	自己の認識、責任の遂行・粘り強い取組、志の共有、現状の把握・分析			価値の認識、他者の認識、他者との協力、熟考、創造					発信			
小 6	題材	前期単元 (コミュニティ)			中期単元 (まちづくり)					後期単元 (まちづくり)			
	配当時間	22			40					33			
	学習内容 Ⅰ	A多様性 B責任性			題材により、いくつかを設定					A相互性 B責任性			
	学習内容 Ⅱ	B目標やビジョンの共有方法 C問題の把握や分析の方法			A計画・立案の仕方 Bビジョンを共有する方法 C表現の仕方 等					Bプレゼンテーションの仕方 C現状の分析方法			
	重点を置く 資質・能力	自己の認識、責任の遂行・粘り強い取組、志の共有、現状の把握・分析			価値の認識、他者の認識、他者との協力、熟考、創造					自己の認識、志の共有、発信			
小 5	題材	前期単元 (自然環境)			中期単元 (ブランド)					後期単元 (自然環境「安全で快適な雪国の暮らしを求めて」)			
	配当時間	20			45					30			
	学習内容 Ⅰ	A多様性 B責任性			題材により、いくつかを設定					A有限性・多様性 B責任性			
	学習内容 Ⅱ	Bメモのとり方 C創造的思考の仕方			A事実の把握・分析の仕方 Bインタビューの仕方 C効果的な表現の仕方 等					Bインタビューの仕方 C情報整理の仕方 等			
	重点を置く 資質・能力	自己の認識、責任の遂行・粘り強い取組、志の共有、現状の把握・分析			価値の認識、他者の認識、他者との協力、熟考、創造					自己の認識、責任の遂行・粘り強い取組、志の共有、現状の把握・分析			

小学5年 単元名「見直そう 地域の人々とのつながり」

<実践の概要>

中越地震で大きな被害を受けた川口木沢地区を訪ね、そこで生活する住民の話を聞いた。すると、早期の復興を成し遂げ、今も元気に生活できているのは、住民同士のつながりの深さがあるためだと子供たちは気付いた。一方で、自分たちは生活する地域の人々とのつながりがほとんどないことにも気付き、このままでは災害が発生しても、協力し合えないのではないかと考えた。そこで子供たちは、地域の人々とのつながりを深めるために自分たちができることを考え、実践した。

実践を通しての成果と課題、これから取り組んでいきたいことを提案文にまとめ、木沢地区の方などを招いて提案会を実施した。子供たちは「もっとあいさつをしていきたい」「自分から地域の人に話しかけていきたい」と提案した。木沢地区の方からは「あいさつはとてもよいことなのでこれからも続けてほしい。」といった言葉をかけていただいた。地域の人々とのつながりを深めるために、自分ができることを実践していこうとする意欲を高めた子供たちである。



川口木沢地区の平澤さんから、木沢地区での中越地震の時の様子をお聞きした。話を聞く中で、復興して元気に生活できているのは、住民同士のつながりの深さがあるためだと気付いた。自分たちの生活を振り返った子供たちは、災害が発生した際に、自分たちは地域の住民とのつながりがほとんどないため、協力し合えないのではないかという考えをもった。



子供たちは、防災グッズを実際に作成したり、地域の人々とのつながりを深めるために自分たちができることを考え、実践したりした。





実践を通しての成果と課題、これから取り組んでいきたいことを提案文にまとめ、木沢地区の方などを招いて提案会を実施した。子供たちは「もっとあいさつをしていきたい」「自分から地域の人に話しかけていきたい」と提案した。木沢地区の方からは「あいさつはとてもよいことなのでこれからも続けてほしい。」といった言葉をかけていただいた。地域の人々とのつながりを深めるために、自分ができることを実践していこうとする意欲を高めた。



児童会行事 「仲良しフェスティバル」

<実践の概要>

毎年7月に全校の縦割りグループで栖吉川の土手のゴミ拾いや生き物の棲息数の調査活動を実施している。棲息数についてはグラフにまとめ、経年変化を調べると共に地域に報告している。



(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

■ 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

☐ 時間外活動の時間を使用

☐ ユネスコクラブの活動として実施

☐ その他 ()

===== ※以下は公表しません =====

●担当者名

職 名 教諭

氏 名 吉田 卓司 (男・女)

電 話 0258-32-4191

E-mail fusyo@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。

(共用メールアドレスがない場合は、個人メールアドレスでも可。)

●活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。(※別途郵送でも可)

☐ 紙媒体の参考資料(新聞、出版物など) ☐ CD-ROM ☐ 写真

☐ その他 ()

留意事項

※必ず本様式に記載してください。

※学校名は正式名称を記載してください。

※当報告書はユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容は必ず、添付資料ではなく本報告書の「3. 活動内容」欄にご記入ください。

※ユネスコ本部においても、ユネスコスクールの活動内容の充実が重要視されており、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続未提出の場合には、ユネスコスクールの加盟取り消しを勧告させていただくことがありますので、あらかじめ御了承ください

